

【特別研修・在外研究成果報告書】

研究者	所属・職位	氏名
	総合グローバル学部・教授	稲葉 奈々子
研究課題	フランスにおけるグローバリゼーションと社会運動をめぐる研究	
特別研修期間	2022年度 秋学期 ～ 2023年度 春学期	
在外研究期間	2022年10月13日 ～ 2023年9月20日 (342日間)	
主な研究機関 又は場所	パリ第7大学およびフランス社会科学高等研究院	

研究成果の概要

フランスにおける「住宅への権利運動」にかんする調査

新自由主義的グローバリゼーションの影響のひとつである公共サービスの民営化が格差や貧困に直接結び付いた事例のひとつが「住宅」である。フランスをはじめとした EU 加盟国においては住宅は社会保障の一環であったが 1990 年代以降、市場原理に委ねられるようになり、公営住宅の建設着工件数が減少し、既存の公営住宅の取り壊しも進んだ。これらの現象を福祉社会学的観点からではなく、市民社会論・社会運動論的観点から調査、研究を行った。つまり、福祉としての住宅の現象という側面だけでなく、「社会的なもの」が市場経済の論理によって席卷されることへの異議申し立てへの注目であり、これは新自由主義的なグローバリゼーションに抗議する社会運動に共通し、2000 年代の反グローバリズム運動、反 G8 運動、「オキュパイ」などにも連なる裾野の広いイシューを形成している。在外研究中は、これらの運動のうち、市民団体「住宅への権利運動」におけるインタビューと参与観察による調査を実施した。

加えて、在留資格がない移民についてのインタビュー調査も行った。

研究報告

2022年12月9-11日

台湾で The 10th East Asian Regional Conference in Alternative Geography (EARCAG オルタナティブ地理学会東アジア地域カンファレンス) に出席し、日本における反グローバリズム運動研究の成果として、“Radical Left Movements as Infrastructure for Anti-Poverty Movements and Creation of Alternative Spaces in Japan”のタイトルで報告を行った。

2023年1月26-27日

ポー大学社会学部で、日本の移民の教育格差について (Le système de l'enseignement supérieur au

【特別研修・在外研究成果報告書】

Japon et les enfants immigrés) および日本の反グローバリズム運動について(Le néolibéralisme et la situation socio-économique au Japon : une analyse des mouvements sociaux contre La pauvreté)講演を行った。

2023年3月15-17日

IMISCOE(International Migration Research Network)春季カンファレンス(ニース大学)において、日本の入管収容者の抵抗運動(Resistance of Detainees and Colonialist Rule in Immigration Detention Centers)について報告を行った。

2023年3月21日・30日

トゥールーズ大学東アジア研究所で、日本における新自由主義と社会的排除をめぐる社会運動(Mouvements sociaux et exclusion sociale à l'ère du néolibéralisme au Japon) および日本における非正規移民の社会運動(Les mouvements sociaux des sans-papiers au Japon, des années 1950 à nos jours)について、講演を行った。

出版

編著

樋口直人・稲葉奈々子(2023)『ニューカマーの世代交代—日本における移民2世の時代』明石書店

岸見太一・高谷幸・稲葉奈々子(2023)『入管を問う—現代日本における移民の収容と抵抗』人文書院

樋口直人・ハイメ タカハシ・エデュアルド アサト・小波津ホセ・メルセデス ロサ 村井 オチャンテ・カルロス オチャンテ・稲葉奈々子(2024.2 刊行予定)『日本におけるペルー人移民史(タイトル仮)』インパクト出版会

論文

Nanako INABA(査読中)“The Political Impact of Undocumented Immigrants' Voices Coming Out of the Shadows of Immigration Detention Centers in Japan”, *Social Science Japan Journal*.

「失われた敵対性と「さまよう主体」のゆくえ」(2024年刊行予定)『岩波講座社会学(第13巻)政治・社会運動』岩波書店

以上